

臨床研究に関する公開情報

国立病院機構西新潟中央病院では、下記の臨床研究を実施しております。この研究の計画、研究の方法等についてお知りになりたい方や、この研究のためにご自分のデータが使用されることをお望みでない方は、下記「問い合わせ先」に連絡をお願いします。なお、個人情報や、研究の知的財産等、お問い合わせ内容によっては、お答えできない場合もありますのでご了承下さい。

記

[研究課題名]

中枢性疼痛に対する脊髄刺激療法 Burst DR 刺激の鎮痛効果の経時的变化と適切な刺激強度の検討

[研究責任者]

機能脳神経外科 太田智慶

[研究の目的]

中枢性の脳卒中後疼痛は、脳卒中患者の約8%程度で発症すると報告されており、決して稀ではありません。脳卒中後を含めた中枢性疼痛に対しては、薬物治療は無効なことが多いとされています。さらに、難治性の慢性疼痛に対して効果が高いとされる脊髄刺激療法（SCS）を行っても、中枢性疼痛に対しては効果に乏しい、とされてきました。当院では近年、中枢性疼痛に対して脊髄刺激療法の新たな刺激パターンである、Burst DR 刺激を施行し、良好な鎮痛効果を得ています。Burst DR 刺激は従来の Tonic 刺激とは異なり、刺激感のない刺激であり、十分な効果判定の期間や適切な刺激強度については明らかになっていません。当院の症例を後方視的に調査し、Burst DR 刺激の鎮痛効果の経時的变化と適切な刺激強度を明らかにすることを目的としました。

[研究の方法]

●対象となる患者さん

難治性中枢性疼痛の患者さんで、2018年4月1日から2024年3月31日の間に脊髄刺激装置植え込み術を行い、Burst DR 刺激を行った患者さん

●研究期間

院長承認後から2025年3月31日

●利用する検体やカルテ情報

・カルテ情報：

診断名、年齢、性別、罹病期間、痛みの評価（10を最大としたときの痛みの程度や、Visual analog scale、Pain vision によるスケール）

・画像情報：

術後に施行したレントゲン、CT 画像

●検体や情報の管理

検体や情報は、当院のみで利用します。

[個人情報の取扱い]

検体や情報には個人情報が含まれますが、利用する場合には、お名前、住所など、個人を直ちに判別できるような情報は削除します。また、研究成果は学会や学術雑誌で発表されますが、その際も個人を直ちに判別できるような情報は利用しません。検体や情報は、当院の研究責任者が責任をもって適切に管理いたします。

[問い合わせ先]

国立病院機構西新潟中央病院

所属：機能脳神経外科

職名：医師

氏名：太田 智慶

電話： 025-265-3171（代表）